

2018 年度春学期 授業アンケート「教員コメント」の「FD委員会総括」

FD 委員会

<座学>

1. 学生の感想として、授業内容を「難しい」「やや難しい」と回答する学生が非常に多く、またそれは教養・専門・語学に関係ない傾向があるようです（これは本学学生のみならず一般的に高校生の学力低下に起因するものかもしれません）。しかも、ここ数年でそのように難しいと回答する学生が増加しているのではないかと、との指摘が複数の先生から寄せられています。しかし、ほとんどの授業で、「満足」「ほぼ満足」と回答する学生も多く、いずれの授業でも概ね授業目的を達成し、学生の満足度を上げていくのではないかと評価できます。ただし、それは授業のレベルを落とすのではなく、レジュメ作成やパワーポイント資料等の配布物の見直し、板書の工夫、話すスピードのほか、新聞記事やDVDなどの教材を補足的に活用するなど、各教員の工夫が効果的であった結果だと考えられます。非常勤の先生からは、本年度は学生の受講態度が例年よりも良かったという印象を持った先生方が、少なからずおりました。これを反映してか、アンケートのコメントで先生方が学生の態度に不満を述べることは例年より減ったようです。但し受講態度の良さが成績に反映しているとは言い難いようです。これとの関連で、学生の授業に対する満足度と学力の向上とが結びつかないという指摘がありました。
2. 講義形式で、大人数の授業が比較的多いという条件がある中で、学生の主体的な参加や学びを引き出す教育・指導方法の工夫も目立ちました。小テストの実施やレポート、復習の時間をとったり、中間テストの導入など、理解度の確認と向上のために日々改善する方法を探っていただいていた。また板書では、丁寧でわかりやすくシンプルに説明することを心掛けるといったことのほか、パワーポイントの導入などを検討する例もありました。また、グーグル・ドライブでの配布の活用などは、既に多くの先生も取り入れられ、印刷・配布時間の節約に効果が出たとの回答もありました。また非常勤の先生方からは、学生の「予習・復習」や「自発的な勉強への取り組み」が低く、これを改善したいと先生方が多かったです。そのため受講者が多くても頻繁に学生に課題の提出を求め、それを毎回採点されているという先生もおりました。
3. しかし授業負担も多く、TA・SAをより活用できるようにとの提言もありました。
4. 授業の工夫の方法や事例研究など、さらに求める声もあり、FD委員会で来年度に向けて検討していきたいと考えています。
5. 授業アンケートに、教員に対して礼儀を失するような内容を書く学生がいたり、不真面目な態度をとる学生もいたようです。きちんとした説明をして理解をもとめた先生もありました。

<演習・実習系科目>

1. 全般的に学生の満足度は、高い良好な評価を受けておられるようでした。ただし、不満やあまり評価しない声も多く、担当された先生方からも問題提起は数多くありました。
2. 発展演習については、輪読、フィールドワーク、実習など、ゼミによって多様な内容にはなっていますが、全般的に満足度は高く、学生の積極的な参加がみられるような授業進行になってきていると評価されます。他方で、1クラス当たりの学生数が多く発表・討論の時間が少なくなるとのコメントもありました。また、発展演習の学生の割り振りについては、抽選にもれた学生で不満が多そうなことから、学生の興味・関心が生かされる割り振り方をしてほしいことや学生FD委員会のアイデアも入れてはどうかなどといった提言もありました。
3. アカデミックリテラシーについては学生からの評価はあまり高くはなく、また先生方からも様々な問題や改善策を指摘する記述が多くありました。来年度からアカデミックリテラシーの在り方については改革されたので、当委員会もその他の委員会等と情報交換をしながら、注意深く見守っていくことが肝要だと考えております。

<語学>

1. 語学においても「難しい」「やや難しい」と回答する学生が多いようでした。しかし、いずれの言語でも学生の授業満足度が高いようです。授業の目的にあわせた教材選択や、学生の興味を引くような題材選択などの成果だろうと考えられます。結果として、学生の満足度も高いようで、評価されている先生方が多いようでした。
2. 学生の予習・復習に関しては、特に語学の場合は重要とするコメントが多いですが、まだすべての学生が完全にこなしてきているとは言えない場合もあるようで、全体的に今後の課題としてあげておられる先生が多いようでした。非常勤の先生からは、学生の「予習・復習」の取り組みに満足したというコメントが目立ちました。他方、「聞き取りやすさ」の改善を課題として挙げている先生方が多かったです。
3. 以前よりも授業レベルと学生の語学レベルとのギャップに苦慮していることを指摘する先生方は少なくなり、この点は授業改善が進んでいるようです。これを反映してか、座学同様、アンケートのコメントで先生方が学生の態度に不満を述べることは例年より減ったようです。
4. 習得が遅れがちな学生と語学力に優れた学生に、次第に分かれるという語学教育に特有の問題は、例年のようにコメントされています。予習復習、小テストや授業に関心を高める工夫によって対応をしておられました。

<総括>

1. 上記の各領域での教員コメントから、本学の教員が、専任・非常勤のいずれも各授業の特徴を踏まえ、学生の理解度、教育の質の向上を図るために、FD研修や本学・他学

に限らず意見交換をして、さまざまな創意工夫と日常的に積極的に授業改善に取り組む様子が窺えました。

2. 今回は、座学の方では、特に近年の学生の学力低下があるのではないかという指摘や大人数の授業が多く、教育効果があげにくいという指摘、初年次教育は専門的な研究も進み、専門的な組織や教員で対応すべきといった、提案なども寄せられました。
3. 授業アンケートの改善については、記名・無記名に始まり、自由記述欄の是非、出席回数の多い学生のみとする、あるいはWEBサイトを使ってのアンケートなど、様々なアイデアがありますが、他の公立大学の状況、学生FDからの意見などを集約し、少しずつでも改善するように工夫していきたいと考えています。
4. 学生の意見では、一部の学生が記述している要求が全く的外れの場合もありますし、授業進行や授業の運営姿勢を誤解していることもあります。アンケート記述から授業の改善点に気付くことも大切ですが、そのような記述についてはうまく判断して、理解を求めるように次回の授業時に説明すればいいようにも存じます。もちろん、アンケートの改善は続けてまいります。完全なアンケートもございませんので、アンケート結果をうまく利用していただき、自ら授業の回顧・改善に役立てていただくことも重要でしょう。
5. 最後に、真剣に取り組む本学の学生が多いことへの高評価が散見されるとともに、アンケート結果を真摯に受け止め、改善努力を怠りなく取り組む本学教員の真摯な姿勢が鮮明になりました。授業改善に取り組まれる先生方の熱意と、ご努力に対して、FD委員会からは敬意を表します。今後とも引き続き、学生のためのご尽力をお願い申し上げます。

以上